

## 教育課程編成に向けて 1人1台端末の活用 GIGAスクール構想

**桐陽祭への活用**  
一人一台端末の環境が整備され、授業のカタチを考え直す時代となりました。これまで、学校教育に導入されたコンピュータの教育とは異なり、子どもたちが、鉛筆やノートと同じようにコンピュータ端末を使う教育を実現することになります。

つまりは、ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの使い方や学ぶのではなく、コンピュータの便利な部分を便利に使えるようにすることです。

そのためには、子どもたちが授業中に使う必要性を感じたら、躊躇なく使えるようにすることが大切であり、何よりも必要性を感じることが大事です。そこで、子どもたちの、いろいろなアイデアが飛び交う桐陽祭に、どんどん使って、新しい使い方をみつけて、新しい話しました。その結果、どのような使い方をしたのかについて、いくつか紹介したいと思います。



**動画撮影と編集 投影**  
動画を撮影するのはビデオカメラ、編集するのはコンピュータ、投影するのはプロジェクター、それぞれの機器を使い、教員も関わっていたのが従来ですが、子どもたちは、自身の端末で撮影した動画をそのまま編集し、プロジェクターに繋いで投影しています。そこに教員の手は入っていません。

**クラウド利用で写真の共有**  
桐陽祭期間は、たくさんの方がたくさん写真を撮ります。そして、その写真は様々な場面で活用されます。その写真をクラウド上の共有フォルダに保存してもらい、それらの端末での利用が可能になります。だからこそ、つい数分前に撮った写真まで、エンディングのスクリーンに登場させることができました。

**クイズの出題から結果発表まで**  
googleフォームを活用して、本番中に一人一問のクイズをつくってもらい、全部で二十問のクイズを子どもたちの入力と同時に完成させます。それを五分間で出題し、時間と正解数を端末に自動計算させます。クイズの答えを最後の人が入力した時点で、優勝者をはじめ順位が決定します。もちろんリアルタイムでスクリーンに投影し、順位の入替わりを見ながら結果を待つこともできます。

## 実りの秋の集大成 桐陽祭



[教育目標]  
心豊かな生徒  
自ら学ぶ生徒  
たくましい生徒

# 桐の里だより

令和3年11月号  
三島町立三島中学校  
校長 関根宏房  
ホームページURL  
<https://nishima.fcs.ed.jp/>三島中学校



今年もまた桐陽祭の時期がやってきました。子どもたちの学びの深さ、そしてその思いを伝える工夫。これまでの学習で身に付けた知識・技能を活用し、観衆を魅了すべく取り組んだ成果を、随所に見ることができる機会、それが桐陽祭です。

三週間前から、放課後の活動をこの準備に充て、取り組んでおりますが、準備のスタート時期は、学年によって違いがあります。それは、中学校に入学してからです。

桐陽祭の準備といっても、何から手をつけばいいのかわからないところからスタートを切る一年生。一年前に桐陽祭を経験し、準備のノウハウは心得ており、自分たちの思いをいかに注入するかに気持ちの傾ける二年生。

自分たちが学んだ事を、いかにわかりやすく、そして真実味をもたせ、観衆を魅了する表現にするか、ここに全精力を傾ける三年生。

その年の三年生の発表が終わると、一年生は本当の意味で桐陽祭準備のスタートを切り、二年生は自分たちの桐陽祭に向けて再スタートをします。そして三年生は自分たちで創り上げた桐陽祭のエンディングを迎えます。

私が三島中に赴任して、三度目の桐陽祭となりましたが、三年生の表現発表には、毎年、違う感動があります。そして、毎年、当日を迎えるまでにはドラマがありました。

一昨年は、例年通り、沖繩への修学旅行を経て、ひめゆり学徒隊をはじめ多くの犠牲者を出した地上戦の悲劇を伝えましたが、桐陽祭間際に病気で参加できなくなった生徒に代わり、担任の先生が代役を務めました。

昨年は、コロナ禍で沖繩への修学旅行は勿論のこと、桐陽祭の前の現

地学習が叶わず、町内の戦争を経験された方の話を、奥会津聞き書き百選を読み返しての学習により、平和への願いを伝えました。

そして今年、やはりコロナ禍で桐陽祭前の沖繩への現地学習は叶わず、昨年夏休みに行った広島の平和祈念式典時の学習や、桐陽祭後に行く長崎に関する学習を深め、沖繩の地上戦に加え、広島・長崎への原爆投下もたらした悲劇をもとに、自分たちがい世代が担うべき役割を迫る演技で伝えました。さまざまなドラマ、困難があってもそれを乗り越え、どうしても伝えたいことを表現するからこそ、見る人の心を動かすものと考えます。

これを、これが、下級生に伝わり、教職員に伝わり、見に来られた方々に伝わり、三島中の伝統となつていきます。

この伝統は、写真や映像などの記録だけでは伝わりにくく、実際に見て心動かされた者の記憶により伝えられていくものであると思います。この先もずっと。

### 今月の1枚

恐竜と話をする  
少年たち

11月10日(水)

長崎市恐竜博物館

修学旅行で訪れた  
長崎市  
10月29日(金)  
にオープンしたばかりの、日本で3つ目の恐竜博物館

